

# 第3次三次市総合計画の策定に向けた まちづくりワークショップまとめ

---



令和5年5月

# まちづくりワークショップ

## 【目的】

- ・ 新しい総合計画の策定にあたり、市の将来像や将来像の実現に向けたまちづくりの進め方などのご意見をいただき、計画策定の資料とさせていただくもの
- ・ このワークショップを通じて、新たな活動の契機となる交流の場につなげるもの

## 【開催内容】

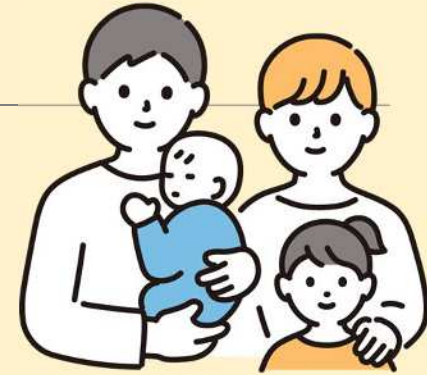
開催日	実施内容	
【第1回】 令和4年12月16日	【全体】 三次市の現状について考える講演会の開催（広島修道大学 伊藤 敏安 教授）	 
【第2回】 令和5年2月21日・ 22日	【分野別】 分野ごとに三次市の現状（魅力・問題点）について意見出し	
【第3回】 3月22日・23日	【分野別】 項目ごとに「ありたい姿」「ありたい姿に向けて取り組むこと」についての話し合い	
【第4回】 4月19日・20日		
【第5回】 5月26日	【全体】 全体で共有	

## ひとづくりグループ テーマ① 子育て

### ありたいまちの姿

- 子どもがまちづくりに関わりたくなるまち
- 帰ってきたいまち

- ・ 子どもたちがこのまちで仕事を見つけ、このまちに住み続けることができる
- ・ 地域の伝統や文化を子どもたちに継承している
- ・ 親子3世代で楽しく地域に出かけることができる
- ・ 子どもたちがまちづくりに関わってくれる
- ・ 「地域の核」としてコミュニティセンターが機能しており、地域とのつながりが大切にできている
- ・ のんびり、ゆったり、のどかな環境で子育てできる
- ・ 今の子育て支援を続けることはもちろん、他市との差別化を図り、選んでもらえるまち
- ・ 母親に選んでもらえる・子育てしたいと思えるまち



### 取り組みこと

- ◆ 子どもたちや子育て世代の人たちがまちづくりに関わるができる仕組みをつくる
- ◆ 子どもたちや子育て世代を対象に郷土愛を育むことのできる取組を行う(帰ってきたいと思える理由づくり)
- ◆ 子どもの医療助成に継続して取り組む
- ◆ 子どもの教育や進学への支援(奨学金など)を行う
- ◆ コミュニティセンターの機能充実・人材確保
- ◆ 先進的な子育て支援を行っている自治体(明石市など)の取組を参考にする
- ◆ 子育てしながら働ける環境を整える(働く場の創出、起業支援など)
- ◆ 父親の家事や育児への参加を推進する
- ◆ 何もかもはできないので、財源を確保して子育て支援に集中する
- ◆ 多様化するニーズに対応できる仕組みをつくる(指導者の育成など)

### 現状

#### 魅力

子どもの医療支援・育児支援が充実 田舎らしい体験ができる(とんど/神楽/盆踊り/どんちゃん)  
子ども診療所が開設されている 子ども(18歳まで)の医療費が1回500円  
24時間365日小児救急医療体制を維持している

#### 課題・問題点

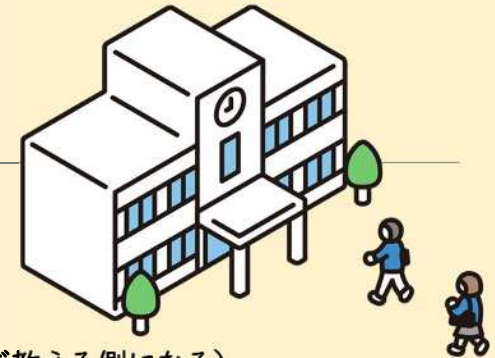
保育所・幼稚園の環境整備(人材確保・幼児教育の充実) 子どもたちと地域のつながりが不足  
家庭での児童の様子が見えにくい 「三次ならでは」が見えにくい

## ひとづくりグループ テーマ② 教育

### ありたいまちの姿

- (学校教育×社会教育+ICT×リアル) =ひとづくりにつながるまち
- 関わり合えるまち

- ICTの環境が充実して、有効に活用し、調べる力が育まれる
- ハード、設備を使いこなすスキルを身につけている
- 学校教育と社会教育のどちらも充実していて、相乗効果が発揮されている
- 大人も学ぶ環境が充実して、自らをアップデートできる
- コミュニティセンターを核として、学びの展開、循環が行われている(大人が地域や学校で教える側になる)
- 学校以外にも子どもたちが地域とつながっている(先生やPTA以外の大人とも交流できる)
- 三次の子どもはこれが得意という個性が伸ばされる
- 勉強する前の勉強のやり方からアプローチできている



### 取り組むこと

- ◆ ICT×リアルのそれぞれの良さを取り入れるハイブリッドな教育環境の整備
- ◆ ハードを使いこなすためのソフト面の充実を図る
- ◆ コミュニティセンターや図書館など、地域の学習の場を活用する
- ◆ 学習の対価としてお金が発生することの意義を教える
- ◆ コミュニティ・スクールを活用して、生徒と大人がつながる仕組みをつくる
- ◆ 学校で地域の様々な人たちの考えや生き方、働き方を知るきっかけをつくる

### 現状

#### 魅力

特徴ある教育(コミュニティ・スクール/ICT活用)を行っている  
通級が中学校まであり学習支援体制がある  
保育士、先生が本当に努力されている

#### 課題・問題点

教育環境の充実(大学、プログラミング、食育等)  
幼稚園、保育園が不足している  
子どもたちとネット環境、SNSなどの情報との関わり方  
子どものネットリテラシーの醸成

総合的な学習で地域の体験活動を実践している  
中高一貫教育があり、きめ細かな支援が行われている

幼稚園、保育園の情報の一元化  
三次ならではの教育(例:三次産の食材を使用した食育)  
私立高校や大学がない

## ひとつくりグループ テーマ③ スポーツ・文化

### ありたいまちの姿

- 元気・やる気・本気DEつながるまち
- ゆる～く挑戦できるまち

- ・ 子どもがスポーツに打ち込める、やりたくなったときにできる環境がある
- ・ スポーツ、文化を通じて子どもたちが大人たちと関われる
- ・ よい施設で本物が見られる
- ・ 三次の子どもは“これが得意”というものがある
- ・ “挑戦できるまち”としてトライしやすい環境がある
- ・ ゆる～く認め合っている関係性がある「チャレンジデー文化のまち」
- ・ 神楽などの文化活動を身近に感じてもらえる取組み、環境がある
- ・ 「見る楽しみ」と「やってみる楽しみ」が両立している



### 取り組みごと

- ◆ 学校のクラブ活動に民間のスポーツクラブを活用する
- ◆ 子どもたちが学校に行きながら、地域の団体スポーツに参加できるようにする
- ◆ 指導者育成、クラブ運営の支援、送迎システムなど、費用面も含めて、負担を軽減する仕組みをつくる
- ◆ 情熱ある人材の募集に情報バンクを活用できる仕組みをつくる
- ◆ 費用を工夫して本物を呼び、舞台の裏側などを経験させてみる
- ◆ 「やってみたい!」と思えるようなパンフレットを作成する
- ◆ 三次版チャレンジデーをつくり、チャレンジデーへの参加を身近な人たちに呼び掛ける
- ◆ 大人も楽しくスポーツできる場をつくる(年齢別などで参加しやすい仕組みをつくる)

### 現状

#### 魅力

スポーツ・文化施設が充実しており、中山間地域の拠点になっている  
 スポーツ、文化関連のイベントが充実している  
 もののけ、神楽など地域の伝統文化があり、継承する人材がいる

スポーツしやすい環境が整っている  
 スポ少など地域の支援が手厚い  
 立派なコミュニティセンターが多くある

#### 課題・問題点

体験できるスポーツの種類が少ない  
 施設を活かした学校教育、社会教育の実施  
 図書館、学校図書館の充実と活用

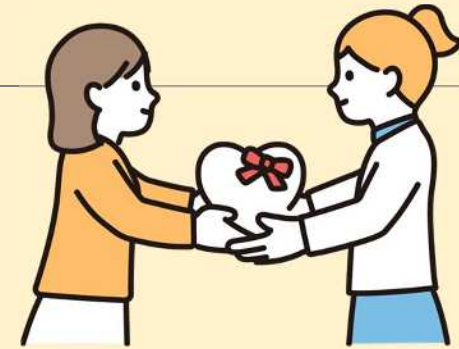
子どもたちの体力の低下が見られる  
 施設をもっと活かす、もっと本物を見せる  
 イベントへの若者参加の増加

## ひとつくりグループ テーマ④ 男女共同参画・平和・人権

### ありたいまちの姿

- (平和と人権を守る) ゆずりあいができるまち
- MITOMEAERUまち

- 男女というくりではなく、“個”にフォーカスしている
- 男性の育児参加人口が増加している
- 様々な外国籍の人たちが暮らしやすい(交流し、分かり合える関係性がある)
- 国際交流が活発になっている
- お互いに相手への思いやりを持ち、日々が平和で、心おだやかな生活が送れている
- 譲り合いができる、挨拶ができる



### 取り組みごと

- ◆ 近所の外国籍の人たちと交流する
- ◆ 地域活動に外国籍の人たちも一緒に取組む、参加できる仕組みづくり
- ◆ 情報を受け取る側の人たちの言葉でも発信する
- ◆ ゆるく関わられるイベント等を企画、開催する(参加するのにハードルが低いもの)
- ◆ 自分から挨拶する
- ◆ 教育、スポーツを通じて、地域とつながり、相手への思いやり、家族の大切さを学ぶ
- ◆ 作法やしきたりを学ぶ機会を設ける
- ◆ 自分たちの世代で、外国人の方に対する開けた考え方を共有(認め合い、共存できるような関係性)

### 現状

#### 魅力

多様性を認め合う風土・平和への取組が継承されている  
人権について子どもたちはよく理解している  
男女の差を感じない

女性の活躍支援がある(アシスタlab./みよしアントレーヌ)  
平和への取組みが継続して位置づいている

#### 課題・問題点

女性が働きやすい職場づくり(特に若い女性)  
まちづくりに参加するメンバーが固定化している  
多様性に関する取組強化

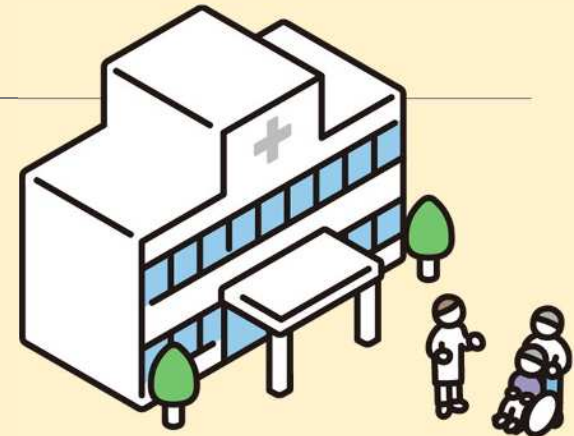
若者、意識ある層の掘り起こし

## くらしグループ テーマ①保健・医療

### ありたいまちの姿

- 上手に連携してだれもが安心して生き切れるまち
- どこに住んでいても安心な保健・医療が受けられるまち

- ・ ライフステージに応じた生き方ができる
- ・ 心身ともに健康でそれを幸せに感じながら生活できる
- ・ 今あるもの（医療機関や専門人材など）を連携しながら有効に活用する
- ・ 人口が減っても今の医療を継続し医療ニーズの多様化や高まりにも対応する
- ・ 本人の希望通りに必要な医療が市内どこに住んでいても受けられる
- ・ 受診や通院が困難な交通弱者への対応
- ・ メンタル不調に対応できる
- ・ 長期間対応できるリハビリテーション施設がある
- ・ 産婦人科の充実（子どもを産む場の選択肢を増やす）



### 取り組むこと

- ◆ 基幹病院としての中央病院の充実を図り、中央病院からドクターを地域の病院に運ぶことで、医療従事者を確保する
- ◆ 地域医療と地域交通を一体的に運用できる仕組みをつくる
- ◆ 今の医療を継続するとともに、心の問題についても必要な医療が受けられる場をつくる
- ◆ 正しい食生活・運動・社会性の啓発（健康づくりの合言葉「くうでるうごく（食う出る動く）」の実践）
- ◆ フレイル予防に取り組む（フレイル…老化や不活発な生活により、こころとからだの働きが弱くなった状態）
- ◆ デジタルが使えない人でも保健医療に関する必要な情報が取得できるようにする（しっかりした情報伝達の仕組みづくり）
- ◆ スマホの活用による病院窓口対応を行う

### 現状

- 魅力**  
医療体制が充実（基幹病院・地域の診療所・医療機関同士の連携）  
医療面での育児支援が充実
- 課題・問題点**  
医療資源の確保（助産師・在宅医療従事者等）と有効活用  
医療機関の利用しやすさの向上  
高度医療・メンタル不調への対応  
医者が減っている中、医者を増やすことは難しい

## くらしグループ テーマ②福祉

### ありたいまちの姿

- お互いの思いやりとサービスの充実でだれもが笑顔で過ごせるまち～おさだえのまち～
- 何かしようとしている人を切り捨てないまち

- 心のバリアが解消された共生社会が実現できるまち(垣根のない社会)
- 理解しながら笑顔で暮らせるまち(障がいや認知などに関する相互理解)
- 自助、互助、共助でみんなで支えるまち(地域住民同士が支え合う地域共生社会)
- いろいろなサービスを個々の状況に応じ誰もが安心して利用できるまち
- 障害の有無にかかわらず、出かけられるまち
- 手を差し伸べてくれるまち
- ユニバーサルデザインが行き届いたまち
- 子どもと障がいのある方との交流ができるまち
- 高齢者の健康と生きがいが実現できるまち



### 取り組むこと

- ◆ 目配り、気配り、思いやりを大切にする
- ◆ 相手のことがわからないと何もできないので、人と人とのつながりを重視し、普段からコミュニケーションを心掛ける
- ◆ 福祉に関する理解を深めるための学びの場をつくる
- ◆ 地域のサロンなどを活用し、地域内あるいは地域間で連携する
- ◆ 認知症サポートの充実、サポーターの周知・育成に取り組む
- ◆ 福祉関係機関の横の連携を強化する
- ◆ 相談窓口をワンストップ化する
- ◆ LINEなどのSNSを活用し、気軽に相談ができる仕組みをつくる
- ◆ ロボットなどの最先端技術を活用し障害者の働く場を創出する
- ◆ 生活困窮者を把握する
- ◆ 地域の実態に応じた三次市独自の取組を行う(行政のがんばりに期待)

### 現状

#### 魅力

福祉体制が充実している  
誰もが使いやすい公的施設や商業施設がある

社会的弱者を支える市民マインドが定着している

#### 課題・問題点

福祉関連の人的資源が不足している  
高齢者・障がい者がスポーツなどを楽しめる場が少ない  
高齢者・障がい者の就労場所が少ない

施設の空きがわかりにくい上に入所手続きも高齢者には負担  
障がい特性に応じた窓口対応(マニュアルが必要)



## くらしグループ テーマ③地域交通

### ありたいまちの姿

- 「困ってる」を便利にする地域交通
- 交通の要衝を生かしつつ地域を結ぶオンデマンド交通のまち

- 全ての人不安なく利用でき、多様なニーズに対応できる地域交通
- 人を運ぶだけではない、みんなに便利な地域交通
- 周辺部を含め、車を所有していなくても望む時に望むところへ移動できるまち
- バス停までの移動手段があり、交通弱者が困らない交通網が整備されている
- 三次市と周辺地域(空港など)とを結ぶ交通手段が確保されている
- 自動運転技術を活用した持続性のある交通システムがある
- 自転車やベビーカーを含め、安全に移動しやすい環境が整備されている



### 取り組むこと

- ◆ 地域交通に対する属性別(子ども、高齢者、障がい者など)のニーズを調査し対応策を検討する
- ◆ 地域の現状と利用者ニーズに即した地域交通の実現に向けたモデル事業に取り組む(オンデマンドバス、シルバーバス、貨客混載、デイケアの送迎バスに学生も乗せるなど)
- ◆ 継続性が必要。今の取組を充実し、公共交通利用の割合を増やす
- ◆ 空港からのアクセスを改善するためにオンデマンド予約式の小型車両を導入する
- ◆ 自動運転車が走れるレーンを整備する
- ◆ 自転車の利用を促進する(レンタサイクルや、レーンを整備する)

### 現状

#### 魅力

広島市への公共交通機関が充実  
タクシーの台数が多い

輸送の拠点になれる  
くるるんバスが良い

交通機関がない地域が少ない

#### 課題・問題点

デマンドバス(タクシー)の周知が必要

バス停までの移動が不便

くるるんバスを必要としているところをくるるんバスが走っていない、バスの便数が減少した

尾道市、福山市、大阪、広島空港への公共交通が不便

中心地以外は車がないと不便

## くらしグループ テーマ④防災・安全

### ありたいまちの姿

- 正しく恐れて、正しく身を守れるまち
  - 災害時に個々が適切に動けるまち～災害は起こるもの～
- 
- 全ての人不安なく暮らせるまち
  - 災害時に必要な情報(避難所情報など)が入手できるまち
  - 災害時の安否確認ができる
  - 災害をゼロにすることができないことを理解し備えを行なう(防災意識の向上)
  - 学校内の安全対策が徹底している
  - 自主防災組織が機能している
  - 避難時に支援を要する人の安全が確保できている



### 取り組むこと

- ◆ 適切な判断ができるよう(自分事として受け止め避難するかどうかを適切に判断できるように)な周知方法を検討
- ◆ 災害時の連絡手段を複数用意しておく(NTT伝言ダイヤルの三次版、アマチュア無線の活用等)
- ◆ 災害の備え(防災グッズの準備など)についての意識啓発・防災教育を行なう
- ◆ 何かあった時のガイドライン作成、ルール作り(誰が何をするかを各自が知っておく、地震時の「ため池」管理、交通網が寸断された時の対応など)
- ◆ ハザードマップ・避難所の周知
- ◆ 取り残さない体制づくり(避難弱者の個別支援計画策定、観光客のフォロー)
- ◆ 水害対策強化(堤防の強化・河川の浚渫(しゅんせつ:河川や港湾などで水底の土砂等を掘りあげる))
- ◆ 災害ボランティアセンターの充実、人材育成

### 現状

#### 魅力

大きな事件が少ない  
台風・地震などの被害が比較的少ない  
防災に力を入れている(計画がある、ハザード整備が進んでいるなど)

#### 課題・問題点

面積が広く災害発生時の状況把握や対策が取りにくい  
水害が多い・河川が氾濫すると大きな被害が出る  
地域差がある(避難場所、防災意識など)  
個別支援計画が周知されていない

## 仕事づくりグループ テーマ① 就労促進・起業促進

### ありたいまちの姿

- 稼げるまち三次
- 若者が夢を持って稼げる仕事づくりを応援できるまち
- みんなとつながるまち(知レッタみよし)

- ・ 就労5年で平均年収を超えられる三次
- ・ 周辺部にも企業ができ、若者が働き先を選択できるまち
- ・ 雇用労働以外に、協同労働方式の仕事をする場ができる(広島市にはプラットフォームがある)
- ・ 地域で仕事をみんなで受託し、シェアして働くことができる(事務を含めた仕事シェア)
- ・ 若い人が起業してガンガン稼げるまち
- ・ 楽しくやりたいことがあり、高齢になっても好きな仕事ができるまち
- ・ 今いる人が安定して、生き生きと暮らし働けるまち



### 取り組むこと

- ◆ 仕事づくりを学ぶ場をつくる
- ◆ 起業のやり方がわかりやすく伝わるシステムをつくる
- ◆ 市内で起業した人や企業を紹介し、起業者同士に横のつながりをつくる
- ◆ 様々な働き方をイメージできるよう、三次で働く人を紹介する動画をつくる
- ◆ 稼げる起業に向けてチャレンジできる環境をつくる
- ◆ 就農支援を強化し、推奨作物やスマート農業の導入を図る
- ◆ 本業以外の副業で働ける場を広げる
- ◆ チームで働く場をつくる
- ◆ 人と仕事をマッチングする場やアプリをつくる

### 現状

#### 魅力

支援制度が充実(・アシスタlab.など女性への支援が充実・起業支援補助金がある)  
人が元気(・移住者や起業者が増加・年配の方でもいきいきと働き続けている方が多い)

#### 課題・問題点

就労場所が少ない(・企業数・若者が夢を持って働ける仕事・女性がライフステージにより選べる仕事)  
起業支援制度が不十分(・起業後の継続支援・支援制度の周知がない・男性の起業支援が少ない)  
就労に障害がある(・仕事探しと保育園入所が同時にできない・新卒時就労のつながり不足・何の会社があるかわからない  
・季節労働の繁忙期が重なる)

## 仕事づくりグループ テーマ②農林畜産業

### ありたいまちの姿

- 農林畜産業で豊かに暮らせるまち
- 体験から始まるまち

- ・ いろんな人が活躍できる三次でありたい
- ・ 市内外のだれもが農林畜産業の体験ができ、交流を通じた繋がりができ、産物が売れ、自然が誇れるまち
- ・ 生産から加工・販売までをシステム化して、農業で多くの一億円事業が生まれ、その姿に若人が夢を抱くまち
- ・ 子育てしながらも女性が働きやすい農林畜産業がある
- ・ 多様な製品になるようにスギ・ヒノキだけでなく、多品種を活用した取組ができる林業がある
- ・ 小さい圃場でも将来ビジョンが明確で、残す農地、守る農地が明確になっている
- ・ 就農するときから、販売先を明確にできる仕組みがある
- ・ チームで仕事ができる仕組みがある



### 取組むこと

- ◆ 農福連携等、農業に関する行政の取組みを使えるよう、農業者から発信
- ◆ 補助に頼らず自立した経営を目指し、農業者自らが取組みを発信
- ◆ 協同労働など農業で多様な働き方の選択肢を創る
- ◆ 地域通貨で農業をアミューズメント化
- ◆ 農業インターシップ制度など、農業体験の場を設ける
- ◆ 市が間に入って農地を貸し出す取組みやマッチングを支援
- ◆ 販路拡大（三次ブランドの売り込み）、体験型観光開発
- ◆ 農林畜産業で稼げる仕組みづくり
- ◆ 事業者チームで6次産業化に取り組む（販売、広報）（保存食品のようなものをつくる）

### 現状

#### 魅力

豊富な特産品（・三次ブランドが作られている ・品目ごとに活躍している人の名前を挙げるができる ・豊かな自然・資源）  
農業支援制度が充実（・農業に関わる法人等への助成の充実 ・新規就農補助の充実 ・農業に関する補助金が多い）

#### 課題・問題点

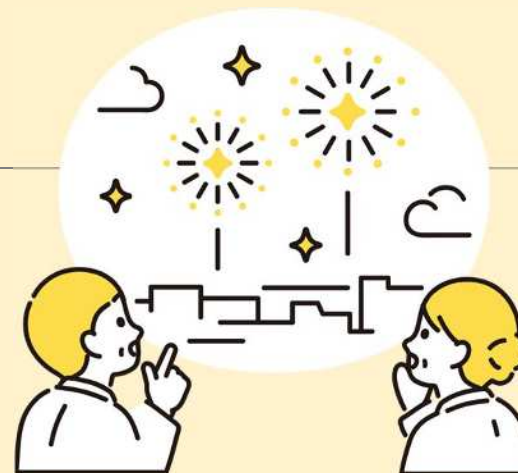
離農と耕作放棄地の拡大（・高齢化や獣害による離農 ・担い手不足 ・耕作放棄地の拡大）  
補助支援制度に課題がある（・使いやすい補助金が少ない）  
農業振興施設が不足している（「トレッタみよし」のみ ・物流拠点）  
就労への障害（農業研修できる作物に限られる ・半農半Xをしやすい環境 ・季節労働の繁忙期が重なる）

## 仕事づくりグループ テーマ③商工業・観光

### ありたいまちの姿

- 酔えるまち・・「二日酔いになれるまち」
- 心から自信をもっておすすめできるまち

- ・ 市民と観光客が共有できる文化や施設があるまち
- ・ 宿泊施設が充実し、仕事や観光で泊まりやすいまち
- ・ 公共交通が便利で、外国人も来やすいまち
- ・ 観光資源が明確で、有名なイベントがあるまち
- ・ 観光施設だけでなく、地域も魅力的なまち
- ・ 有名な企業や中小企業とコラボで有名なまち
- ・ 職業体験などの交流プログラムが豊富なまち
- ・ 地域商品に誇りが持て、外から中へお金の流れをつくれるまち



### 取り組みごと

- ◆ 古民家再生・グランピングなど宿泊の選択肢を増やす
- ◆ 自転車を利用した「しまなみ～やまなみ」の周遊ルートを作る
- ◆ 地域の資源をアピールできるコンテンツを作る（例：キャンプ、ジビエ体験など）
- ◆ 三次ならではの食事やサービスを提供する（新しいホテルも活用する）
- ◆ PRを行い、目玉となる企画を実施する
- ◆ お金を払ってでも来なくなる、有料化できるイベントを開催する（例：花火大会など）
- ◆ 地元にお金が落ちる仕組みをつくる
- ◆ 観光の仕事以外の地元の人と協力する
- ◆ 個人、DMO、市が連携して計画をまとめる

### 現状

#### 魅力

観光資源が豊富（・各地域に拠点があり観光資源をPRできる ・観光スポットが多い ・三次ワイナリー周辺 ・三次町石畳）  
豊富な特産品（・三次ブランドが作られている ・品目ごとに活躍している人の名前を挙げる事ができる ・豊かな自然・資源）

#### 課題・問題点

観光の力不足、PR不足（・異業種連携や三次一帯での取り組みが少ない ・三次ブランドのPR不足 ・目的を持って訪れるだけの魅力が少なく宿泊に繋がらない ・商工業に力を入れているが、本社が県外等で三次にお金が落ちない ・ピオーネ、鶯飼など期間が限られる ・小学生以上の子が遊ぶ場所が少ない ・観光のターゲットがわからない）  
不便な交通システム（観光地を回る手段が車しかない ・交通の便が悪く車のない人特に外国人が不便）

## 仕事づくりグループ テーマ④定住・交流

### ありたいまちの姿

- デュアラーのまち「みよし」、デュアルなまち\_\_「みよし」・・世界の二拠点のまち
- つながるまち\_\_「みよし」、みんなでつくりあげる、つながりあう

- ・ 世代間交流が盛んで、食文化や伝統を引き継ぐまち
- ・ 子どもの教育や医療が充実し、自然環境でのびのびと育てるまち
- ・ 人口7万人(二拠点生活者)で半分以上が40歳以下、都市との二拠点生活が可能なまち
- ・ 三次に住むことにメリットがあり、地域外からも人が集まるまち
- ・ 活気や魅力があって、地域の経済や文化が発展するまち
- ・ 交通網が整備されて、アクセスしやすいまち
- ・ 高齢者が安心して暮らせるまち
- ・ 多様な人々が共生し、住みやすいまち



### 取り組みごと

- ◆ テレワークがどこでもできる環境の整備:インターネット回線やオフィススペースなど、どこでも仕事ができるようにする
- ◆ 活気ある地域への視察:淡路島など、人口減少にもかかわらず魅力的なまちづくりをしている地域を参考にする
- ◆ 副業ができる仕組みづくり:体験農業などの副業を通じて収入やスキルを増やすことができる仕組みをつくる
- ◆ 二拠点生活者を増やす:都市と三次の両方に住むことで、人的交流や情報交換を促進する
- ◆ 実際に移住した人へのヒアリング:移住のメリットやデメリット、課題や要望などを聞き出すことで、移住支援策を改善する
- ◆ 消費の促進(市内):特産品やサービスを販売したり、イベントやキャンペーンを実施することで、市内の消費を活性化
- ◆ 魅力的な仕事をつくる:高収入やキャリアアップなどの可能性がある仕事を提供することで、若者や専門家などを惹きつける
- ◆ 起業したい人を三次に呼ぶ:起業支援制度やインキュベーション施設整備し、三次でビジネスを始めたい人を誘致する
- ◆ 地元で活躍する人を作る(ロールモデル):成功している人や取組を紹介し、地元の誇りや希望を持たせる

### 現状

#### 魅力

人が元気(・移住の満足度や定着率が高い・空き家バンクの活用で移住した人がこの1年で増えた)  
安心して暮らせる温かな人と環境(・移住者を受け入れる温かさ・充実した医療を受けることができる地域のため安心して暮らせる・自然が豊か) 移住支援体制が充実(・移住コーディネーター制度の整備)

#### 課題・問題点

域内連携不足(・年配者と若者をつなぐ場所がない・移住した人の孤立)  
住居不足(・田舎に借家が少ない・住む場所が意外とない)  
効果的な外部連携が不足している(つながり人口の掘り下げ不足・産学官連携・ふるさとサポーター制度の役割が不明)  
不便な交通システム(・どこに居住するかにより利便性に違いがありインフラ格差が大きい)

## 環境づくりグループ テーマ①④環境・景観

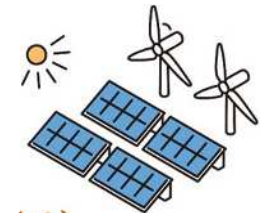
### ありたいまちの姿

- 三次ならではの自然環境と都市が融和したまち
- 自然を学び体験し、伝えることができるまち
- 景観づくりは人づくり
- 明るい安全な住みたい景観のまち

- ・ 自然環境と都市が融和した都市デザインが構築できている
- ・ 三次の自然を守りたいと子どもたちに思ってもらいたい
- ・ 景観や自然を守り次世代につなぐ
- ・ 景観を守るのは人・地域、その人や地域づくりが重要
- ・ 明るくユニバーサルデザインが行き届いている

### 取り組むこと

- ◆ 共有できる目標を設定し実行する
- ◆ 環境や景観保全のための条例を制定し必要な規制を行う(三次市景観条例の改正など)
- ◆ 公園を大切にする
- ◆ SDGsの環境保全目標に取り組み、その取組をアピールする
- ◆ 市民、企業、住民自治組織などで交流し、継続的な意見交換を行う
- ◆ 行政や団体、住民がまとまって活動を推進できるようリーダーを育成する
- ◆ 保育の場や学校で自然を生かした教育(川で魚を取ったり、木の活用など)に取り組む(地域の人も参画する)
- ◆ 環境関連イベント(スポーツゴミ拾い、ボートでゴミを回収しながら川下りなど)に取り組む
- ◆ 山野草を学んで、食料として活用できるようにする
- ◆ 山の整備を計画的にする
- ◆ 市外からの転入者と対話しつながりをつくることで景観づくりへつなげる
- ◆ ボランティアから脱却し取組の対価を得られるようにする
- ◆ 市のマスコットキャラクター「きりこちゃん」を前面に使うまちを明るい雰囲気(駅に顔出し看板を設置するなど)
- ◆ 優れた景観(インスタ映えスポット)を増やす(スマホスタンドの設置、インフルエンサーにアピールしてもらうなど)
- ◆ まちにアートを描いたりアート作品を設置する
- ◆ バリアフリーの環境整備



### 現状

#### 魅力

天然記念物のオオワシやコウノトリが飛来する  
子どもが自然に触れる機会が多い  
廃油回収など環境保全の取組がある

自然豊かで山野草などが充実  
ゴミの収集が適切に行われている

#### 課題・問題点

カーボンマイナス、カーボンゼロ、吸収源対策がない  
自然を生かした教育を推進しきれていない  
環境保全活動の強化が必要(インター周辺の雑草、ゴミの不法投棄への対策、河川敷の適切な管理、リサイクル・リユースの推進など)

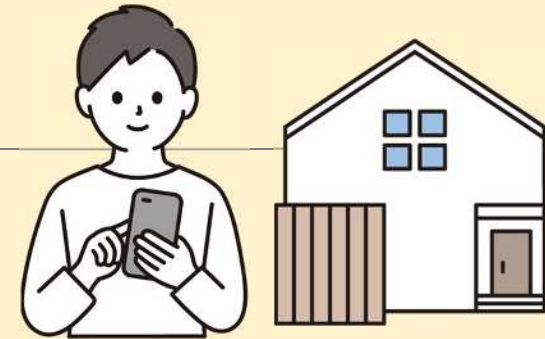
景観を保全するための規制が必要(景観条例の改正など)

## 環境づくりグループ テーマ②生活基盤

### ありたいまちの姿

- 最後まで暮らし続けられるまち
- のびのび、みよし暮らしができるまち

- 防災・防犯の面からも安心して暮らせる
- インフラが整っている(道路、上下水道、橋、トンネル、教育インフラなど)
- 高齢者、障害者が安心して道路を利用できる
- 誰でも便利に生活できるよう交通手段(バス、JRなど)が確保されている
- 広島・三次市間の広域移動が安く便利に移動できる
- 携帯電話が確実につながる
- 昔からある家(古民家)が残っていて、活用できている



### 取り組むこと

- ◆ いざという時に確実に避難できるように避難経路を整備する
- ◆ 避難経路の周知と合わせて防災訓練を行う
- ◆ 道路の改良や防犯カメラの設置で、道路の利便性や安全性を高める
- ◆ バリアフリーの環境を整備する(点字ブロックの適切な設置や傾斜のきつい歩道の改善など)
- ◆ 安い料金でバスやJRで移動できるようにする(国へ要望する)
- ◆ 広島・三次間の高速道路無料化やJRの快速増便により移動の利便性を高める
- ◆ 携帯電話の不感地域(微弱)の解消を国に徹底して要望する
- ◆ 市が空き家を買取り公共施設として利用、拠点施設として開放、予約して使える場所にする、シェアハウスにする など活用する
- ◆ 空き家を改修して借家にする場合の初期費用を補助することで、空き家の適切な管理を促進する

### 現状

#### 魅力

上下水道が整備されていて水道水がおいしい  
暮らしやすい(インターが2カ所ある、買物がしやすい、山と町のバランスが良いなど)  
空き家バンクなどの制度がある

#### 課題・問題点

災害時の不安がある(内水対策など)  
歩道のデコボコ、段、傾斜が多く、車椅子での移動が困難な場所がある  
点字ブロックの破損、舗装に障害物が放置されているなど、視覚障害者への配慮に乏しい  
空き家が多い 高速バス代が高いなど広島市内への移動が不便 携帯電話が入りづらい地域がある



## 環境づくりグループ テーマ③ICT

### ありたいまちの姿

- **誰でも使えるICT環境のまち**
- **ICTを活用する人材を増やすまち**

- ・ 誰でも利用できるICT環境が整っている
- ・ 様々な分野でICTを効果的に活用できていて、生活が便利になっている(教育、医療、防災、除雪、自然環境の保護、市役所手続きなど)
- ・ ICTに強い人材が育成できる
- ・ 市民誰もがICTを使いこなすことができる
- ・ 三次でもICTを通じて学んだり働ける環境があって、人が集まっている



### 取り組むこと

- ◆ **リテラシー(活用する力)の向上やICT教育レベルを平準化**
- ◆ **ICTについての勉強会や長期的に学習できる環境をつくる**
- ◆ **ICTにかかるコストを抑制する**
- ◆ **学校でのICT教育を充実させる(専用ソフトで動画やイラストなどの勉強ができる環境をつくる)**
- ◆ **スマホやPCの普及率を上げる**  
※ 特に、高齢者への普及を進める(デイサービスでスマホの使い方を教えるなど)
- ◆ **ICTに関連するイベントを開催し、ICTで生活が利便なことを実感してもらう**
- ◆ **ブックカフェを誘致することでリモートワークできる場所を提供する**
- ◆ **フリーWi-Fiが使える場所を増やすことで環境を整える(駅や商業施設など)**
- ◆ **市外へ進学・就職で出た人も、将来三次に帰って来れるよう、イラストレーターやシステムエンジニア等リモートワークができる人材を育成する**

### 現状

#### 魅力

市内全域で高速インターネットが使用できる 図書館でフリーWi-Fi が使える  
オンライン授業が受けられる環境が整っている タブレット学習などを進めている  
市役所の電子申請が増えて楽になった

#### 課題・問題点

ICTをもっと多方面で活用すべき(観光、医療、教育、交通、情報共有、情報発信など)  
ICTの活用を広げるために、勉強会が必要  
Wi-Fiが使える場所が少ない

## しくみづくりグループ テーマ① 地域づくり

### ありたいまちの姿

- 人が集まり会話がはずむ あんばい いい塩梅のまち

- どの世代でも、誰もが、先々に希望が持てる、安心して暮らせる地域づくりが行われている
- いろいろな世代が協力しあえる自治組織がある
- 新しいことにチャレンジすることを応援できるまちづくりが行われている
- 子どもたちに帰ってきてもらえるまちづくりが行われている
- 移住者の受け皿になる仕組みがある
- 現在住んでいる人が発信する情報と移住したい人のニーズがマッチしている



### 取り組みごと

- ◆ 世代を超えて老若男女が集い、地域の未来について対話、議論できる場・時間をつくる
- ◆ いきなり自治会ではなく、人をつなげていくことで自治に興味が無い人も自然とまちづくりに関わっていく仕組みをつくる
- ◆ 地域の中で若者が新しいことにチャレンジすることを応援する
- ◆ 地域活動への若者の参加を促すためには、若い人の意見を地域が受け入れていく
- ◆ コミュニティスクールを地域づくりの仕組みに取り入れる
- ◆ 若い世代（高校生）が行政やまちづくりに参加できる仕組みをつくる
- ◆ 移住者や外国人を受け入れる側の意識変革と、まちに馴染んでもらえる仕組みをつくる
- ◆ 個々で取り組まれているまちづくりや起業を結び付ける、地域のハブ（結節）機能の仕組みをつくる

### 現状

#### 魅力・良いところ

- 各地域の住民自治組織や自治会がしっかり機能している
- コミュニティスクールの取組で地域と学校のつながりが深くなった
- 集落支援員の活動や地域おこし協力隊など、移住・定住に取り組み、成果が出ている地域がある
- 若い人が自治会長や役員になっている自治会がある
- 祭りやお宮など地域ごとにつながりがある

#### 課題・問題点

- これまでどおりでは自治会の維持が難しくなりつつある
- 世代間で自治会活動のあり方、考え方にギャップがある
- 高齢化で地域活動への参加が難しい人が増えている
- まちづくりや起業など、地域内で取組はあるが個々での取組になっている
- 地域の活動に参加する人が固定化し人手が不足
- 様々な地域の活動に若者の参加が少ない
- 移住者の定着支援や外国人の受け入れ体制が不十分

## しくみづくりグループ テーマ② 行財政改革

### ありたいまちの姿

#### ● 三次の未来へやっちゃろー!!

- 三次で生活することの良さがわかりやすく内外にアピールされている
- 田舎の良さ、ちょっとのおせっかいを発信している(三次ならではの見える)
- 地元の人魅力だと気づいていないことを発信している
- 人口が減少しても、地域が盛り上がり幸せに暮らせている
- 子どもたちがやりたいことができる
- 市役所職員が現地へ行き、生の情報を吸収している
- 予算の使い方が未来への投資になっている
- 市民参加型で、市民団体や地域コミュニティからの提案が事業予算に反映される



### 取り組みごと

- ◆ 三次の良さを戦略的に、ストーリー性のある情報で発信する
- ◆ 市長がもっとメディアに出る、三次市と関係のある有名人、ふるさと大使から発信してもらう
- ◆ ポスターやパンフレットは市内に置くのではなく市外に置く
- ◆ 市に“PR課”を設置し、PRに特化した業務を担当する(インパクトが大事、発信し続ける)
- ◆ 観光課を「観光してくる課」にして、現地へ行くことを主業務とする(視野を広げる。デジタル情報では体験できない)
- ◆ 旅費を確保し、職員を年1回は県外に直接出向かせ、目線を変える
- ◆ ふるさと納税の使い道を市民が考えたり、用途をHPで公開したり、ふるさと納税をした人に三次市に来てもらう仕掛け
- ◆ 財政状況を市民にわかりやすい指標で伝える
- ◆ 未来に向かってやるべきこととやめるべきことをはっきり市民に伝え、理解してもらう
- ◆ 中期財政計画と総合計画がリンクしていることが分かるような伝え方

### 現状

#### 魅力・良いところ

- 三次市からの情報発信がよくなっている(ホームページがわかりやすい、SNSが充実している)
- 三次市広報が充実している
- 市有財産の処分に取り組んでいる
- 三次市シティプロモーション戦略が期待できる
- 尾道松江線の開通で広域的なつながりが強化された

#### 課題・問題点

- プロデュース、営業が不足している(市外や企業との連携不足)
- 情報発信が遅い、PRが弱い
- DXによる未来的な行政運営の実現と人員配置見直し
- 縦割り行政による情報共有不足と専門知識の継承が課題
- 市役所職員のIT活用(リモートワーク、ペーパーレス化など)
- 予算の使い方が市民目線からずれている
- 市有財産の適正価格での売却や稼ぐ発想の不足

## ワークショップの様子



## 報告会の様子

